

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 国語科～デジタルツールを活用した協働的な文章作成の実践～



この話は町外れの円形劇場あとに迷い込んだ不思議な少女のモモが親友や子供達と楽しく暮らしていた所へ時間泥棒という男たちがやってきて人々の時間を奪い、奪われた人は怒りっぽい落ち着きのない人になってしまいます。モモがそれを止めるためマイスター・ホラと協力して奪われた時間を取り戻すお話です。

モモは勇気のある少女だと思います。なぜならモモが時間の国から帰った時、もし私だったら親友も子供たちもいなくて自分一人になったら時間泥棒から奪われた時間を取り戻すことを一人で諦めていたと思うからです。自分のためではなく仲間のためにどんなに自分が苦しくてもあきらめないで立ち向かっていくモモは勇気のある友達思いの少女だとおもいます。私は一学期の時に学級代表になりたいと思っていたけど、なれなかったら恥ずかしいなとかもし誰も票を入れてくれなかったらどうしようかと思ってしまって結局勇気が出せずに見ているだけになってしまいました。でも後で勇気を出してチャレンジして見たらよかったなと後悔しました。モモは命懸けだから私よりももっと緊張したと思うので私もこれからはすぐに諦めずに勇気を出して何事にも立ち向かうと思いました。

国語科の「書くこと」の領域において、デジタルツールを活用して、児童が文章構成と推敲の過程を協働的に進める学習を行いました。児童は複数の文章のまとまりをカード形式で分け、それぞれのカードに適切な内容を配置しながら、文章の構成を考えました。この段階では、自分の考えを整理し、どの順番で情報を伝えるかを意識することができました。

その後、推敲では、児童同士が文章を送り合い、互いに添削を行いました。友達が文章の中で足りない部分や改善点を赤で添削し、フィードバックをもらうことで、より良い文章に向けた改善が行われました。この活動を通じて、児童は文章の構成力や推敲力を高めるとともに、他者との協働性を感じ取っていました。